

文化財関係研修の実施

発掘技術者研修「保存科学課程」

今年度の「保存科学課程」は、5月21日から6月5日まで実施し研修生は10名と例年に比べ少ない人数でしたが、少人数ゆえに密度の濃い研修をおこなうことができました。現場での応急処置、一時保管、事前調査、保存処理、保管・展示など遺物を保存するにあたって重要となる内容について講義、実験、実習をおこないました。2週間という短い期間では、様々な遺物の保存についての知識と技術をマスターすることはなかなか難しいことですが、基本的なことをひと通りこなすことで、保存科学に対する理解が深まったようです。

研修生の中には、今後保存処理担当者として実際に取り組んでいかなければならない方もいれば、発



金属器保存処理実習

掘現場で保存科学の知識を活かしたいという方もおり、立場はそれぞれ違っていました。今回の研修を受けることで、保存処理のマニュアル作り、外注に際して留意しなければならないこと、遺物の取り扱いなど多くの点で認識を新たにできたとの感想が寄せられました。研修生の皆さんがこの研修の成果を埋蔵文化財の保存に活用されることを期待しています。



脆弱遺物の取り上げ実習